

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(6月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『はじめての梅しごと』

梅シロップをつくろう』

高野 紀子 文・絵 / 偕成社

対象：5歳から高齢者まで



内容のご紹介

深緑の大変美しい季節となりました。6月1日(日)は、本町を流れる久慈川で、東北地方で一番先に鮎の解禁セレモニーが行われます。

今月ご紹介の絵本は、“はじめての梅しごと”です。シロップづくりの料理の絵本です。

梅の歴史は、約 4,000 年前に中国で栽培されていたといわれています。

日本には、遣唐使によって持ち込まれました。日本でも古くから庭木として親しまれ、春を告げる花は、人々の心を癒します。

果実は、平安時代に梅の実を塩漬けにする方法が考案され、“梅干し”として食用となりました。

明治時代には、予防治療薬として重宝され、時代を経て現在まで、健康を維持する身近な食品として、重要なものです。

梅の効果を知り、健康な生活を送りましょう。

「梅しごと」とは、古来から梅の実でさまざまな食べ物、飲み物を作ってきた手仕事の総称です。この本では、その中の「梅シロップ(梅ジュースとよばれることもあります)」の作り方を主に紹介します。梅の実を洗って砂糖とつけ込む、というシンプルなものですが、ひとつずつの工程すべて子どもでもできることで、保育園などで作ることもあるくらい、はじめての手仕事におすすめです。作りながらこの絵本を読めば、梅の実が実るために必要なことなどの知識も補えます。梅の実がどんな風にくふうされて食べられてきたのか、ほかの梅しごとや、梅シロップのできるおいしいもの、なども紹介。

(紹介文:偕成社/矢祭もったいない図書館)